

第6学年 道徳科学習指導案

日時：平成30年8月28日（火） 5校時

場所：第6学年教室

指導者：T1 教諭 佐藤 史子

T2 教諭 日下 美緒

1 主題名 明るく生きる

2 主題について

(1) ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、A「主として自分自身に関すること」の「誠実に、明るい心で生活すること」と関連が深い内容である。

「誠実さ」とは、他人に対しても自分自身に対しても、うそ・偽りやごまかしがなく、自分の良心に従い、真心をもって行動しようとする態度のことである。人は誰しも誠実に行動し、明るく生活したいという願いをもっている。しかし、自分の心の弱さから、ごまかしをしたり言い逃れをしたりして、真心をもって行動できないことがある。このことは、形の上では、相手に対するうそやごまかし、裏切りとして表れるが、実は自分自身を裏切ることにもなるのである。誠実に生きることは自己を向上させることにつながるとともに、他者や集団の中で明るく楽しい生活を送ることができるようになるためには欠かせないものである。

良心に従って精一杯努力したり、人に対して真心をもって接したりしようとする心情を育むことが重要だと考え、本題材を設定した。

(2) 児童について

本学級は、男子8名、女子7名、計15名の学級である。困っている友達に優しく手助けをしたり、委員会や係活動などに前向きに取り組んだりする姿が多く見られる。また、多くの子どもたちは自分の良心に従って判断することの大切さに気付いている。

本時の授業にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

(7月13日実施 男8名 女6名 計14名 未実施1名 質問紙法)

A (だいたい身に付いている) B (どちらかといえば身に付いている)	A	B	C	D
C (あまり身に付いていない) D (不足しているので今後身に付けたい)				
自分でやろうと決めたことは、最後まできちんと行う。	3人	9人	1人	1人
正しいと思うことは勇気をもって行う。	3人	8人	3人	0人
うそをついたりごまかしたりしないで、明るく元気に生活する。	2人	7人	4人	1人

どの項目でも、おおむね肯定的に捉えている児童が多い。詳しく見てみると、Aの評価をしている児童が少ないことが分かる。このことから、子どもたちは、頭では分かっているにもかかわらず実際の行動に移すのが難しいと考えていることが推察される。また、「正しいと思うことは勇気をもって行う」「うそをついたりごまかしたりしないで、明るく元気に生活する」の項目で、あまり身に付いていないと回答している児童が3～4名いる。この結果から、いけないと分かっているにもかかわらず自分の弱さに負けてしまったり、正しいと分かっても自信がもてなかったり、行動に移すまでの勇気がもてなかったりすることによって、誠実に基づいた行動をとることができないことが考え

られる。日常の生活場面でも、そのことを裏付けるような行動が時折見られることがある。

(3) 教材について

① 教材名 「手品師」 出典：「新しい道徳6」 東京書籍

② 価値 A－(2) 正直，誠実

③ 教材について

本教材は、あまり売れない手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを捨て、男の子と交わした約束を守るという内容の話である。しかし、手品師には、それを決心するまでに大きな葛藤が見られる。手品師の葛藤と決断について深く考えることで、「自分に対する誠実さ」について考えることのできる教材である。男の子にも自分自身にも誠実に行動した手品師に寄り添うことによって、誠実に生きることのすばらしさや相手に真心をもって尽くしたときの清々しさを感じとっていくことが期待できる教材である。

④ 教材分析（別紙）

(4) 指導にあたって

人は、一つの結論を出すまでに、多くのことを考えながら自身のとるべき行為を決定していく。どちらを選択するのかということだけではなく、その選択に至るまでの登場人物の気持ちを考えることが大切であると考え。そこで、対話の中に多面的に考える場面を設定し、登場人物の葛藤に深く共感できるようにする。手品師の決断は、男の子に対する思いやりの心からだけではなく、また自己犠牲の精神だけでもない。予想される児童の反応を類型化し、問い返しを何パターンか準備しておくことで、道徳的諸価値の理解が深まるような対話を進めることができるようにしたい。

子どもたちは人生の岐路に立つ経験や、生き方に関わる選択をする経験が乏しく、教材の話自身を身近なこととして捉えることが難しいと考える。そこで、より身近な場面をT2による説話によって設定し、自己の生き方に関わる選択をする際の発想の糧になるようにする。

(5) 研究の視点

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業スタイルの工夫

① 自他との対話を促す支援の工夫

a 事前読み

・教材を事前に読ませ、授業でみんなで話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもって主体的に対話を進めることができるようにする。

b 対話中のツールキット，心情スケールの活用

・対話中にツールキットを活用することによって、自分の立場を明確にしたり考えを広げたりできるようにする。

・心情スケールを活用することによって、自分の考えの可視化を図る。

② 「あすなるノート」の活用

授業の最後に対話を振り返り、次の順序であすなるノートに書かせる。

1) 対話の中で心に残った友達の意見や考えが変わったことを書かせることによって、多面的・多角的な考えに気付かせる。

2) 対話を振り返り、本時の授業を通して考えたことを書かせることによって、自己と対話させ、自分自身の姿を見つめ直し、自己理解を深めることができるようにする。

(6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言**1**、**2**を踏まえ、対話の中で児童に考えを積極的に発表させ、考えを取り上げてほめたり認めたりする。

また、提言**3**を踏まえ、本時のねらいを明確にし、授業のまとめの段階で振り返りの時間を設定する。

提言**4**、**5**を踏まえ、事前に家庭学習で教材を読ませ、感想と本時で話し合いたい課題を考えさせる。また、授業のまとめでも自分の考えを書く活動を設定し、振り返らせることによって、自分自身の姿を見つめさせる。

3 本時の学習

(1) ねらい

どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

(2) 準備物

- ① 教師：掲示用挿絵 事前アンケート短冊 心情スケール ツールキット
コミュニティーボール
- ② 児童：教科書 筆記用具 あすなるノート ネームカード

(3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問○発問・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価 (方法) ※研究の視点 【5つの提言】
事前	【家庭学習】 ・資料を読み、感想と話し合いたい課題をあすなるノートに記入する。 【朝の活動】 ・各自が考えた課題の中から、本時で話し合う課題を全員で決める。 ・本時の課題に対する自分の考えを「あすなるノート」に書く。	・教材を事前に読ませ、授業で話し合いたい課題を考えさせることによって、児童が課題意識をもつことができるようにする。 ※①a 【提言5】 ・課題に対する考えをあすなるノートに書かせ、自分の考えをもって授業に臨むことができるようにする。 【提言4】
本時 導入 5分	1 教材を読んだ感想を提示する。	・教材を事前読みした感想を示し、全体での共有を図る。 ※①a
展開 30分 分 価値 理解	2 教材を基に、児童が選んだ課題について対話する。	
	選んだ課題 (例) ○なぜ手品師は大劇場に行かずに男の子との約束を守ったのでしょうか。	

他者理解	<p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ手品師は自分の夢を選ばなかったのか ・大切な約束は友情を超えるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に児童が選んだ課題で対話を始め、どうしてその課題を考えたのか理由を発表させる。 ・対話の途中で、手品師の行動について、自分だったらどうするかを心情スケールにネームカードを貼らせ、それぞれの考えを可視化する。 ※①b
人間理解	<ul style="list-style-type: none"> ・手品師はどんなことを考えていたのか。 ・大切なものは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たとえばどういうこと?」「～さんと似ている」「自分だったら」などのツールキットを活用し、自分と友達の考えを比較しながら自分の考えを深めさせる。 ・どちらを選択するのかということではなく、その選択に至るまでの手品師の気持ちを考えさせたい。それぞれの選択の結果について多面的に考える場を設定し、手品師の葛藤に深く共感させることで教材の価値理解を深めることができるようにさせる。 【提言1 2】
価値理解	<p>◎たった一人のお客さまの前で手品を演じている時、手品師はどんなことを考えていたでしょう。</p>	
	<p>【予想される反応 A (満足)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を守れてよかった。 ・男の子が喜んでくれている。 ・さすががしい。 <p>【予想反応 B (後悔)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今頃大劇場では・・・ ・やっぱり行けばよかった。 ・自分の夢は・・・ <p>【予想される反応 C (迷い)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これでよかったのか? ・本当に自分のやりたかったことなのか。 	<p>【反応 A への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本当によかったのかな?」 ・「手品師の夢は何だった?」 ・「男の子が喜んで手品師はうれしかったの?」 ・「手品師は、がまんしたの?」 <p>【反応 B への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大劇場に行っていたら、男の子はどうなっていたかな?」 ・「約束を破ることってどう思う?」 <p>【反応 C への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうするのがよかったと思う?」 ・「結局、どうしたかったの?」 ・T 2 は、児童が特定の意見に集中した場合、新しい視点を与えるような問い返しをする。 ・対話の後に、手品師の心情を想像し、満足しているのか後悔の気持ちがあるのか心情スケールにネームカードを貼らせ、それぞれの考えを可視化する。 ※①b ・心情スケールで変容が見られた児童に意図的に指名し、発表させる。

	<p>自己理解</p> <p>↑</p> <p>↙</p> <p>行き</p> <p>戻り</p> <p>する</p> <p>↘</p> <p>↓</p> <p>他者理解</p>	<p>3 教師の説話をもとにした対話を する。</p> <p>○とても迷って決めたあと、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>【予想される反応A（満足）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷ったけど、やってよかった。 ・約束を守ってよかった。 <p>【予想される反応B（後悔）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷って決めたけど、やらない方がよかった。 <p>【予想される反応C（迷い）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうなのかよくわからない。 ・他の選択もあったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T 2 の説話を聞き、そのときの気持ちについて考えさせ、自分の心に誠実に行動することの大切さについての考えを深める。 <p>【予想される反応 A への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてそう思った？」 ・「約束を守らなかったら、よくなかった？」 <p>【予想される反応 B への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やったらどうなったの？」 ・「どういう風によかったの？」 <p>【予想される反応 C への問い返し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「他の選択って例えば？」 ・「どうしてそう思った？」 <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの自身の生活に生かせるよう、今までの自分を誠実さの視点で見つめ直させる。 ・ T 1 は、児童が特定の意見に集中した場合、新しい視点を与えるような説話をする。 <p>◇自分自身に誠実であることについて話し合っていたか。（話し合いの様子、発言）</p> <p style="text-align: right;">【提言 1 2】</p>
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p>自己理解</p>	<p>4 心に残った友達の意見や、考えが 変わったことと感想をあすなるノ ートにまとめ、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話を振り返り、心に残った友達の意見や自分の考えが変わったきっかけとなった意見、今後に生かしたいと思ったことなどを書かせることによって、多面的・多角的に考えさせる手立てとする。 ※② ・ 本時の授業を通した感想を書かせることで自己との対話をさせ、自分自身を見つめ直し、自己理解を深められるようにする。 ※② ・ 数名の児童に意図的に指名し、書いた内容を発表させることで、考えの共有と他者理解を深められるようにする。 <p>◇誠実に行動することの大切さについて、自己を見つめて考えていたか。（発言、ノート）</p> <p style="text-align: right;">【提言 3 4】 ※②</p>

(4) 評価

誠実に行動し、明るく生活することのよさについて、自己を見つめて考えていたか。

(5) 板書計画

<p>「(例)なぜ手品師は大劇場に行かずに男の子との約束を守ったのでしょうか。」</p> <p>問い</p> <p>大劇場への夢</p> <p>さびしそう</p> <p>ひとりぼっち</p> <p>腕はいいが売れない手品師</p> <p>いつか大劇場に立つのが夢</p> <p>「あしたも来てくれる」</p> <p>← →</p> <p>「きつと来るよ」</p> <p>たった一人の前で</p> <p>すばらしい手品</p> <p>男の子との約束</p> <p>手品師</p>	<p>子どもたちから 出された問い</p>
--	---------------------------